

What's new? 一研究室探訪一

信州大学医学部保健学科看護学専攻本郷研究室

本郷 実

本稿では、主任研究者の本郷が現在実施している2つの社会的研究について紹介したい。これらは学内外のメンバーによる学際的研究グループにより遂行され、活動には多くの研究者・医療従事者が参画している。

1. 青少年の生活習慣病予防医療を目的とした地域連携型研究・教育・実践拠点の確立

平成17年より長野県内のモデル中学校で実施している生活習慣病調査研究では、血清尿酸（本郷教授）、脂質（検査技術科学専攻日高哉准教授）などで科学的エビデンスが得られている。平成18年多職種医療従事者をメンバーとする「青少年のメタボリックシンドロームを考える」研究会を学内に組織し、県栄養士会などの協力を得て、市民公開講座、学校“出前クリニック”（個別・集団指導）などの社会啓発活動、近隣自治体における生活習慣病予防連携事業の支援、平成20-21年度文部科学省委託「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」（松川村）、平成23年から実施している家族の「生活習慣病予防外来」など多方面からの取り組みを行っている。成果は平成23年、26年に「信州発」青少年の健康教育プログラムにまとめられ、県内全ての教育機関に配布された。現在、ピロリ菌感染症の調査が進行中であり、除菌へ向けた体制づくりを目指している（本郷教授、消化器内科岡村卓磨医師、小児科中山佳子助教）。また、松本大学廣田直子教授が中心となり、中学生の保護者世代の生活、食習慣・食意識を調査している。なお、厚生労働白書平成26年版に、研究会が支援する松本市の健康寿命延伸事業「子どもの生活習慣改善事業」が全国を代表する取り組みとして掲載されたことは特筆すべきである。以上、地域及び教育機関と連携して子どもの頃から生活習慣病予防に対する意識付けの強化を幅広く展開し、青少年の生活習慣病予防医療に関する国内トップレベルの研究・教育・実践拠点を確立して、信州から広く全国に成果・情報を発信することを目標としている。

2. 健康長寿社会の実現に向けた地域連携型高度保健医療システムの構築（図1）

平成22年長野県の健康寿命は男性6位、女性17位であり、地域で優先的に解決すべき健康課題の設定や住民への健康・食育・運動教室の実施など、健康長寿に向けた介入は十分とはいえない。本研究では、国の「成長戦略」、 「日本再興戦略」に掲げられた健康寿命延伸を達成することを目的として、平成26年3月医学部と地域連携協定を締結した「男性長寿日本一」の北安曇郡松川村で、①保健・医療・福祉・社会・経済環境など多方面からのデータ収集及び“健康長寿健診”（高齢者の栄養調査、血液検査、体力測定等）により、長寿に関連する要因の解明と課題の解決に向けた対応策の構築（理学療法専攻横川吉晴准教授、看護学専攻五十嵐久人准教授、循環器内科伊澤 淳講師、本郷教授、日高准教授、廣田教授）②高齢者の生活習慣病及び運動器症候群予防、認知症の早期発見、生活行為の向上支援等を目的とした健康・食育・運動教室、新たな認知症検査、生活支援の実施（横川准教授、作業療法専攻上村智子教授）、③健康寿命延伸に寄与する専門保健医療職者の育成を図り、科学的エビデンスの構築及び地域住民の健康管理・健康増進事業を推進する。以上、先進的な保健医療システムを構築して、「より健康な地域づくり」を通して健康長寿社会を実現することを目指している。

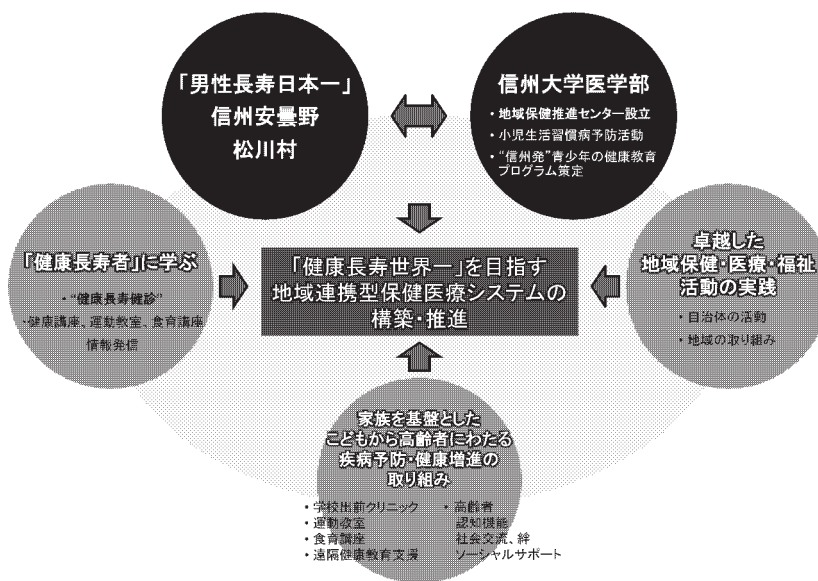


図1 「健康寿命世界一」を目指す松川村と信州大学医学部の地域連携